

元 TOKIO・山口達也さんが発症した

大腿骨頭壊死症 難病に指定、増える人工関節置換術

元 TOKIO の山口達也さんが昨年末、大腿（だいたい）骨頭壊死（えし）症を患っていることを公表しました。俳優の坂口憲二さんや歌手で女優の堀ちえみさん、伊東ゆかりさんも特発性大腿骨頭壊死症と診断され、治療を受けています。大腿骨頭壊死症はまれな疾患で、日本では人口 10 万人あたり年間 2~3 人の発生と推定されています。

45 歳の主婦 A さんは生来健康で病気をしたことがなく、酒もたばこもたしなみません。1 年前、右股関節に激痛が走り、体重をかけると痛みが強く、つえなどの助けを借りながら生活していました。数カ月たっても改善せず、整形外科クリニックを受診しました。診察で右股関節の可動制限と夜間安静時痛を認め、エックス線検査と MRI で右の特発性大腿骨頭壊死症と診断されました。

年齢も若く保存的治療を検討したものの、疼痛（とうつう）が強く日常生活の障害が大きいため、手術目的で総合病院へ転院しました。ナビゲーション支援人工股関節全置換術を受け、3 カ月後の現在、痛みもなく普通に歩いています。

■習慣的飲酒、喫煙がリスク

股関節は、人の二本足歩行で最も重要な関節です。歩行時には体重の 2~3 倍の、ランニング時は数倍の荷重が掛かります。股関節は、大腿骨のボール状の頭部（大腿骨頭）が、受け皿の骨盤のくぼみにはまり込んでできています。

従って、前後・左右あらゆる方向に関節を動かせる自由度の高い関節です。ただ、欠点があります。大腿骨の頸部（けいぶ）は、細く折れやすいこと（老人に多い大腿骨頸部骨折）と、骨頭は頸部を通る細い血管で栄養されており、血流が悪くなりやすいことです。

大腿骨頭の血流が悪くなると、骨の組織や細胞が死滅（骨壊死）します。壊死部に荷重などの外圧が掛かり、骨の一部が潰れて（圧潰（あつかい））発症するのが大腿骨頭壊死症です。大腿骨頸部骨折など明確な原因があれば二次性大腿骨頭壊死症で、原因不明で一定の診断基準を満たしたものが特発性大腿骨頭壊死症です。国の指定難病になっています。

発症初期には股関節、あるいは太もも周囲に荷重時に痛みが出ます。骨頭の破壊が進むと、疼痛に加え股関節の可動域制限が出現し、歩行や立ち座り、階段昇降が困難となり日常生活が障害されます。

発症年齢は40～60代に多くなっています。とりわけ男性は40代、女性は30代と60代に目立ち、やや男性に多い病気です。この疾患を患う患者数（有病率）は、最近20年間で約3倍に増加しています。

特発性大腿骨頭壊死症のリスクを上げる要因は、ステロイド（副腎皮質ホルモン剤）の全身投与、習慣的飲酒、喫煙です。男性では飲酒が、女性では免疫疾患などの治療に伴うステロイド使用が多くなっています。

治療方針は壊死部の位置と大きさとで決まる病型と、骨頭の圧潰の程度を示す病期をみて決めます。病期が早期で、範囲が狭く、症状がないか軽度であれば、投薬と経過観察を行います。骨頭が大きく圧潰し、疼痛が激しく日常生活が制限される場合は、外科治療です。

手術には、骨切り術と人工骨頭置換術、人工関節置換術があります。若い人ではできるだけ本来の股関節を温存するように努めますが、最近では人工関節の耐久性も良くなり、人工関節置換術が増加傾向です。